

令和元年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

(平成30年度実績)

令和元年7月

石巻市教育委員会

令和元年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とあり、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と規定されております。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年教育委員会訓令第7号）

3 令和元年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

平成30年度に実施した「石巻市教育振興基本計画実施計画」の掲載事業のうち、将来に渡り長期的に継続していくべき事業、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野で12事業、社会教育・保健体育分野で4事業の合計16事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、平成30年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第3回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

令和元年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する
点検及び評価 対象事業一覧

番号	担当課	事業名
1	教育総務課	就学援助・特別支援教育就学奨励事業
2	学校教育課	石巻子どもの未来づくり事業
3	学校教育課	サイエンスラボ事業
4	学校教育課	学校図書館担当職員配置事業
5	学校教育課	「心の教育」推進事業（いじめ、暴力行為の防止）
6	学校教育課	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）
7	学校教育課	国際理解教育推進事業
8	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
9	学校教育課	適応指導教室運営事業
10	学校教育課	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業
11	学校安全推進課	学校防災推進事業
12	学校管理課	学校給食センター運営事業
13	生涯学習課	放課後の子どもの居場所づくり事業
14	生涯学習課	協働教育推進事業
15	体育振興課	スポーツ振興事業
16	図書館	読書環境整備事業

**令和元年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する
点検及び評価に係る意見聴取会**

1 開催日時 令和元年7月3日（水） 午後1時30分開会

2 開催場所 本庁舎6階 議会第3・4委員会室

3 学識経験者 3名

氏 名	役 職 等
有 見 正 敏 氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
鍵 頼 信 氏	元石巻市立二俣小学校校長
木 村 美保子 氏	元石巻市社会教育委員

4 意見聴取会の進め方

番号	内 容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について事務局より説明
2	・事業内容の説明 「令和元年度（平成30年度事業対象）教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の事業調査票について ①事業目的、事業効果及び現状と課題 ②実施状況及び評価（CHECK）③課題・改善（ACTION）の順に担当課から説明
3	・質疑応答 学識経験者から実施状況等について質問を受け、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見聴取
※ 1事業ごとに番号2～4を繰り返し行う	
5	・学識経験者から全体を通しての総括的意見を聴取
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

5 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

有 見 正 敏 氏

大震災からの教育の復興を目指して児童生徒の心のケア、学力・体力の向上、いじめ問題や不登校対策等、教育委員会、学校・地域と連携しながら、きめ細かな対応や対策に一生懸命に取り組まれていることに敬意を表したいと思います。

令和元年度、将来にわたり長期的に継続していくべき15の事業について、前年度と比較した結果、活動指標の達成率が伸びた事業は3、下回った事業が5、同様の事業が7となっています。一方、成果指標については、伸びた事業が8、下回った事業が2、同様の事業が5という結果になっています。成果指標の事業が、活動指標の事業より3倍近く多くなっており、市民や学校にもたらされた効果は大きいといえます。昨年度と同様な事業の達成率は100パーセント又は115パーセントとなっています。活動指標、成果指標において伸びが見られなかった事業については、財政面との関わりもありますが、原因を分析して、次年度につなげてほしいと思います。活動指標において下回った事業の中で、特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率の達成が低く、50パーセント弱となっています。通常の学級において、学習や生活面で支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、対応が遅れると、不登校や学力問題にも発展しかねないことが指摘されています。学校の実態に応じて、計画的な配置を強くお願いします。

学力向上推進地区における授業公開については、教師の指導力向上は児童生徒の学力向上に必要な不可欠なことです。引き続き目標値を高くして取り組んでほしいと思います。

成果指標の中で、特に懸念されたことは、認知されたいじめの解消です。昨今の報道で、安易な見方や対応をしてしまった結果、重大な事案となったケースが散見されます。各種協議会や研修会などでの成果が確実に生かされるとともに、認知されたいじめについては、成果指標の目標値に近づけるよう粘り強く、組織を挙げて取り組んでほしいと思います。

目標値の設定について検討願いたいと思います。前年度の達成率を踏まえて設定することが、事業の質を高めることにつながると思います。例えば前年度の達成率が60パーセントなら次年度の目標は100パーセントではなく、中身にも応じますが、70パーセントあるいは80パーセントにするなどという、必要があるかと思いました。

最後に、児童生徒が、学校が楽しいと感じる学校づくりができるように、今後も教育環境の整備に努めるとともに、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進に努めてほしいと思います。

鍵 頼 信 氏

16事業については、学校教育だけでなく、社会教育の推進にも欠かせない大切な事業であり、その達成に向けた教育委員会の取組は大変素晴らしく、縁の下の力持ち、あるいは強く引っ張っていただいていると感じました。

ここで感じたことや気になった点を三点述べさせていただきます。

一点目は、良い結果がでたものを前年度踏襲する取組も分かりますが、そうではない事業も前年度踏襲されているものがあります。目標値設定も同じです。これについては、恐らく昨年度も同様の意見が出たのではと思いますが、たとえ良い成果がでたとしても反省点があると思いますし、学校の実態、事業の実態、制度の実態も変わってくると思いますので、やはり次年度の取組に改善されたものがあるべきではないかと感じました。

二点目は、達成率100パーセントは素晴らしいことと思いますが、中身や質はどうだったのかということが大切ではないかと思います。取り組む過程の中身をもう少し検討していくことが必要ではないかと思います。

三点目は、防災について、まだまだ学校・地域によって温度差があるようですので、地区ごとに改めて取り組み、また、校長にとっての満足度はどうだったかをチェックする必要があると思います。

本日の資料は目で見て分かりやすい評価資料となっております。学校、子どもたち、先生方、保護者をサポートしているのは、教育委員会ですので、これからも御尽力いただければと思います。

木 村 美 保 子 氏

震災から8年が経ち、様々な復興事業、特にハード面の事業を中心に本市は取り組んでこられました。ここからは、いよいよソフトの面として、明日を担う子どもたちの教育と、生涯学習との充実によって、心の復興を成し遂げてほしいと思います。特に少子高齢化が加速していくと思われる本市は、子どもという貴重な財産を大切に育てるための教育に最も力を入れなければならないと思います。取組を更に検証しながら、事業に自信をもち市民に強くアピールし、今後も積極的に推進していただきたいと思います。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	1	事業名	就学援助・特別支援教育就学奨励事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	2	安全に安心して学ぶための環境づくり				
	基本施策	3	学習機会の平等				
	施策の展開	1	就学支援の充実				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	充実した教育を行える環境をつくる					
	事業名	就学援助・特別支援教育就学奨励費					
復興計画	施策大綱	未来のための伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる					
	節	未来の人を育てるために					
	細節	学校教育施設・社会教育施設等の復旧・復興					
	事業名						
担当課	教育総務課	事業期間	H29	～	摘要		
事業目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な事情により就学が困難な児童生徒の保護者に対し就学費の助成を行うとともに、特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者に対し就学奨励費の助成を行うことにより、教育機会の均等な提供に努める。 ・東日本大震災により被災し就学困難となった児童生徒の就学機会を確保する。 							
事業効果							
<p>経済的事情（被災含む）のある保護者に対し、就学援助費の助成を行うことにより、すべての児童生徒に対し教育機会を均等に提供できる。</p> <p>また、特別支援教育就学奨励費の助成を行うことにより、特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の負担軽減を図ることができる。</p>							
現状と課題							
<p>令和3年度以降、被災児童生徒の就学支援費についての国の補助対象が、自治体が通常実施している準用保護者に対する就学援助の認定基準までの範囲となる方針であり、令和3年度以降の認定基準の見直しについて検討する必要があるが生じている。</p> <p>また、特別支援教育就学奨励費対象となる児童生徒については、家庭状況等実情を踏まえた支援を継続する必要がある。</p>							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
就学援助費の助成		実施				→	
特別支援教育就学奨励費の助成		実施				→	
被災児童生徒の就学支援費の助成		実施			→		
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	就学援助制度の周知回数	回	3	3	3	3	3
成果指標	就学援助を要する児童生徒の保護者への実施率	%	100	100	100	100	100

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>本年度の支給者数は、就学援助費1,138人、特別支援教育就学奨励費150人、被災児童生徒就学援助費2,553人となり、全制度の延べ利用者数は昨年度より400人の減であった。</p> <p>本年度より被災児童生徒就学援助費については、親権者の市町村民税所得割税額の合計額が211,200円以下を対象とする所得制限を設けたことにより、利用者が減少している。</p>
---------------	---

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	就学援助制度の周知回数						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	回	3	3	3	3	3	
		実績	回	3	3				
	達成率	%	100	100				A	
	成果指標	指標名	就学援助を要する児童生徒の保護者への実施率						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	%	100	100	100	100	100	
実績		%	100	100					
達成率	%	100	100				A		

【評価基準】 達成率が100%以上 …A 達成率が80%以上100%未満 …B 達成率が60%以上80%未満 …C 達成率が40%以上60%未満 …D 達成率が40%未満 …E 事業を実施できなかった …F	総合評価
	A

取組の成果及び評価の理由	教育機会の均等な提供のため、経済的な事情により就学が困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者に対し事業を実施することができたことから、総合評価を「A」とした。
--------------	---

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 就学援助制度の周知回数、就学支援を要する児童生徒の保護者への実施率が、昨年度に引き続き目標を達成しており、大変評価できると思います。今後も全ての児童生徒の就学機会の確保に努めていただきたいと思います。それから、認定基準の見直しに伴って、もしかすると支援を受けられなくなる児童が出てきた場合の対応を考えておく必要があるのではないかと思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 この事業は、家庭にとって大変助かり、非常に評価に値すると思います。令和3年度に見直しということで、事務的ということだけではなく、子どもの家庭の実情を見て判断していかなくてはならないと思います。また、各学校からチラシを配布する際は、保護者が見落とすことのないよう学校と連絡を密に取りながら周知に努めてほしいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 指標の達成率は100パーセントと、必要な方に支援が行き届いている評価であり、非常に良いと思います。</p>
------------	---

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	被災児童生徒の保護者に対する被災児童生徒就学援助事業の継続並びに終了時期等について国及び県の動向を確認しながら事業を計画することが求められる。
-------------	---

今後の対応方針	<p>経済的な事情により就学が困難な児童生徒や特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者に対し、経済的な援助を行うことは、すべての児童生徒の就学の機会を確保するために重要なことであり、今後も法令に則り必要な支援を継続する。</p>					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> (拡充・縮小)・休止・廃止・期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	386,026	329,989			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	2	事業名	石巻子どもの未来づくり事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	1 基礎・基本の確実な定着	3 学習習慣の定着				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	石巻・子どもの未来づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H21	～	摘要		
事業目的							
児童生徒に夢や希望を持たせ、未来を生きるために必要な確かな学力を身に付けさせるため、教師の指導力の向上、児童生徒の学習習慣の育成、志を高める取組の視点から、推進地区ごとに小・中学校が連携して実践する。							
事業効果							
教師の指導力が向上し、また学校と家庭が連携した取組をすることにより、石巻市内の児童生徒の家庭学習習慣が定着し、学力の向上につながる。							
現状と課題							
学力を向上させるためには、各地区の学力向上推進実践校で実施する小・中学校が連携した授業研究の成果を、各地区の小・中学校に波及させていくことが必要である。また、確かな学力の基盤となる生活習慣形成のために、小・中学校が接続し、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化の啓発を図ることが求められる。さらに、教員の指導力向上を図る研修会等の取組が重要である。							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
「子どもの未来づくりフォーラム」、「学力向上に関する講演会」の実施		実施				→	
学力向上推進地区実践校における教員の指導力の向上、児童生徒の学習習慣の形成、小・中連携による教育環境基盤の充実等の実践		実践				→	
学習指導の改善を図る研修会の実施		実施				→	
リーフレットの配布		実施				→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	学力向上推進地区における授業公開の実施校	校	53	52	52	52	52
成果指標	家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合	%	80	80	80	80	80

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>1 「子どもの未来づくりフォーラム」を1回、「子どもの未来づくり講演会・実践報告会」を1回実施した。</p> <p>2 子どもの未来づくり推進地区・実践校の取組状況や成果を「事業報告書・実践事例集」にまとめて活用した。</p> <p>3 「学習指導の改善を図る研修会」は年14回実施した。</p> <p>4 リーフレット「5つのトライ」を市内全小・中学生に配布し、活用した。</p>
---------------	--

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学力向上推進地区における授業公開の実施校						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	53	52	52	52	52	D
		実績	校	31	30				
		達成率	%	58.5	57.7				
	成果指標	指標名	家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	80	80	80	80	80	A
		実績	%	92	92				
		達成率	%	115	115				

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	<p>学力向上推進地区における授業公開については、目標値に達成していないので「D」とした。予習・復習の習慣化については、全ての地区が9年間を見通して取り組んでいる。そのことが児童生徒のアンケートで92%が「家庭学習に取り組んでいる」としていることに結びついていると捉え「A」とし、総合評価を「B」とした。</p>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 教育委員会と学校校長会が連携し、児童生徒の学力向上、あるいは学習習慣の形成等に向けて各地区の実践校を中心に様々な取組がなされていますが、授業公開の実施校が少ない結果となっています。教師の指導力向上、イコール児童生徒の学力向上につながるわけであり、今、教育現場では主体的・対話的で深い学びの授業の改善が求められています。今後、授業を基にした研修会になるよう期待したいと思います。それから家庭での学習が目標値を上回っています。学習の習慣が図られており、評価できると思います。今後学習の習慣化と学力との関係を見ながら更に充実を図ってほしいですし、また、学力を支えるための研修なども事業の中に取り入れると良いのではないかと考えます。</p> <p>【鍵 頼信氏】 長期間継続していく必要がある事業だと思います。教師の指導力向上、子どもの学習習慣の形成、小・中連携という三つの大きな柱からなっています。各地区での高まりが、大分見られると思います。教職員一人ひとりの意識や、質はどうなのかというところまで考えなければならぬと思いますので、教育委員会には実践報告会だけではなく、各地区の取組や、集まりなどに足を運んでほしいと思います。学力向上の支えとなるのは子どもたちが安心して学習できる環境、学校、クラスではないかと思っておりますので、指導をお願いします。</p>
------------	---

	<p>【木村美保子氏】 先生方が大変努力されているのが分かりますし、学びの姿勢に対しても、親も含めて一生懸命やっていると数字にでています。しかし、これからは、たとえ少人数であってもしっかりと学力を向上させるために、どういう仕掛けが必要かという作戦を先生方に考えていただくことも、そろそろ必要ではないかと思います。性格も良く、とてもアクティブで、運動能力も高く、素晴らしい石巻の子どもたちです。学力の部分をもう一步頑張れば、未来はもっと素晴らしい地域になると思います。競争力の減っている中で、仕掛けをいろいろ工夫してほしいと思います。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	市全体で取り組んでいる「学習指導の改善を図る研修会」の内容の活用について、地区や学校の差が見られる。また、「子どもの未来づくりフォーラム」や「実践報告会」の認知度が十分ではない面がある。					
今後の対応方針	「未来づくりフォーラム」での話合いの結果や授業実践において成果のあった取組を、市内小・中学校に周知し、本事業について更に啓発を図る必要がある。 活動指標のとらえを各小・中学校に周知していく必要がある。					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> (拡充・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	4,585	4,533			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	3	事業名	サイエンスラボ事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	2 学習意欲の向上	4 指導方法の工夫・改善				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する					
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐくむ					
	事業名	サイエンスラボ事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H28	～	摘要		
事業目的							
児童生徒が科学への興味・関心をもち、自ら自然を調べようとする態度や能力の育成を目指すとともに、教師の理科指導力の向上、石巻市の理科教育の充実を図る。							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然と関わりながら、科学や自然のおもしろさを感じ取らせることができる。 ・自ら学ぶ意欲、科学的な思考力の向上が図られ、学力の向上が期待できる。 ・教師の理科指導の不安が解消され、理科教育の充実が図られる。 							
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・創造性豊かな人材育成のために、自然に親しみ、科学的思考力を高めることが必要である。 ・小・中学生の理科離れが進行している状況が見られる。 ・理科指導に関する教員への支援、相談体制の確立、理科指導力の向上策が急務である。 							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
科学巡回教室、親と子の科学教室の実施		実施				→	
教材・教具の開発及び教員への提供		実施				→	
学校・教員に対する相談活動・研修会の実施		実施				→	
企業や研究機関との連携		実施				→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	科学巡回教室の開催回数	回	40	40	40	40	40
成果指標	授業が「分かる」、「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合 【(小学生の割合+中学生の割合)÷2】	%	85	85	85	85	85

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<p>1 科学巡回教室の実施について、「原子・分子の学習」、「宇宙の学習」、「科学実験」、「ものづくり」等のプログラムで、市内25小学校、2中学校、2幼稚園、1こども園、市外1小学校で実施した。</p> <p>2 教材・教具の開発及び教員への提供について、原子・分子の模型作製や太陽系の惑星模型の作製を行い、科学巡回教室で活用した。</p> <p>3 学校・教員に対する相談活動について、科学巡回教室の際に情報交換を行うとともに、「天体学習に係る研修会」では、月の満ち欠けを理解するための模型作りを行った。</p> <p>4 「まちなか実験室」と連携し、4小学校において、「原子・分子の学習」を実施した。</p> <p>5 企業や研究機関と連携を図り、LED工作教室を実施した。</p>
---------------	---

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	科学巡回教室の開催回数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	回	40	40	40	40	40	A
		実績	回	42	45				
		達成率	%	105	112.5				
	指標名	授業が「分かる」、「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合 【(小学生の割合+中学生の割合)÷2】							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	85	85	85	85	A
		実績	%	88	89				
		達成率	%	103.5	104.7				

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	小学校に加え、中学校、幼稚園、こども園についても幅広く科学巡回教室を開催した。「天体に関する研修会」を開催したことで、教員の理科指導力の向上の一助となっている。楽しく分かりやすい授業が評価につながっている。
--------------	---

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 理科離れが叫ばれている中、科学巡回教室の実施をはじめ、教材・教具の開発、教員への提供、学校教員に対する相談活動などは、石巻市ならではの取組であり、大変評価できると思います。 授業におきましては、楽しく分かりやすい授業評価となっており、今後は、科学巡回教室での科学の面白さや、不思議さみたいなどころとともに、授業回数も含め、理科の指導法など、そのための研修などの事業も視野に入れて取り組んでほしいと思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 事業が充実してきていると思います。今後も予算を確保し、指導員を増やしてもらおうと、更に充実していくと思います。 昨年度も出た意見ですが、桜坂高校の理科の先生をこの事業に活用できないかについては、検討してほしいと思います。 授業時数という問題がありますが、そこは学校や教育委員会で工夫し、どうすれば授業時数に余裕をもち、子どもたちにいろいろなことを体験させられるのかを学校と一緒に考えてほしいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 地方のまちなかの学校の特性というのは大いに生かすべきだと思いますので、地元の企業とのコラボや、先生方の連携の中で更に情報共有を図り、理科離れにならないように、楽しく今後も進めてほしいと思います。</p>
------------	---

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	学校や児童生徒から継続を望む声が寄せられているため、年齢層に合わせたプログラムの充実を図ること。
今後の対応方針	科学巡回教室の開催校の拡大とプログラムの充実を図る。
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> (拡充・縮小)・休止・廃止・期間満了による終了

事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	5,152	4,999			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	4	事業名	学校図書館担当職員配置事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	2 安全に安心して学ぶための環境づくり				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 学校施設整備の充実				
	施策の展開	5 読書活動の推進	3 学校図書館の充実				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	学校図書館担当職員配置事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H28	～	摘要		
事業目的							
学校図書館に対し求められる3つの役割①読書活動の拠点となること（読書センター）②授業に役立つ資料を備え学習支援を行うこと（学習センター）③情報活用能力を育むこと（情報センター）が十分に果たせることを目的とし、学校図書館担当職員（学校司書）の配置を行うもの							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しもうとする態度が育成される。 ・貸出し冊数や児童生徒の利用者数が増加する。 ・児童生徒の情報活用能力が向上する。 							
現状と課題							
多くの学校は図書担当の教員が学校図書館業務に関わっているが、他にも様々な校務分掌を抱えており、学校図書館業務に積極的に関わることが難しい。また、現在学校図書館の整備等に大きく関わっている一般社団法人団体による被災地支援が令和元年度で終了の見込みであるため、代わりとなる対応策が必要である。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
学校図書館司書の配置			実施			→	
学校図書館司書の研修会の実施			実施			→	
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	学校図書館担当職員数 (R元目標値減少理由：掛け持ち校数の増及び小学校配置への目標変更による)	人	26	26	12	12	12
成果指標	小・中学校への学校図書館担当職員配置率（2校又は3校掛け持ちによる配置を含む）	%	20	50	70	64	64

平成30年度の事業実施状況		<p>平成28年度から学校司書のモデル配置を開始。平成30年度は司書数を6人から12人、配置校数を12校から24校へ拡大した。</p> <p>また、市図書館司書を講師とした研修会の開催や県図書館等講習会への参加により、司書の技能向上に努めた。</p> <p>■初任者研修2回(6日)、全体研修1回(1日)、県等外部の講習会、研究会への参加4回(各1日)</p>							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学校図書館担当職員数 (R元目標値減少理由：掛け持ち校数の増及び小学校配置への目標変更による)						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	人	26	26	12	12	12	D
		実績	人	6	12				
		達成率	%	23.1	46.2				
	成果指標	指標名	小・中学校への学校図書館担当職員配置率(2校又は3校掛け持ち配置を含む)						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	20	50	70	64	64	B
		実績	%	23	46.2				
	達成率	%	115	92.4					
【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		平成30年度は12人の配置を行い、前年度より拡大できたものの、目標値50%を達成することができなかった。							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 図書館担当職員がいるかないかで、図書の運営や教育効果の違いは大きいものがあると思います。名取市などでは一校に一人の図書館司書がいます。予算面での課題もあるかと思いますが、学力等に大きな成果を上げているという自治体がありますので、御検討いただきたいと思ひますし、今後、年次計画どおりに拡充を図ってほしいと思ひます。また、地域や家庭に呼びかけるなどして、ボランティアとして募集し、確保に努めることも一つの方法と思ひます。</p> <p>【鍵 頼信氏】 今の子どもたちは、長文を読む体力や精神力がないといわれていますので、本を読む楽しさを教えていただくためにも学校図書館司書を増やしてほしいと思ひます。できれば図書ボランティアの方の研修も通して人数を増やしてほしいと思ひます。</p> <p>【木村美保子氏】 学校では、朝読書や朝の読み聞かせなど積極的にしていると思ひますが、司書がいる学校の方が学力等の結果がでているというのであれば、例えば引退された先生方や市内にいる有資格者、民間のボランティアも含めて掘り起こしをし、各学校に一人の司書を配置して、子どもたちが図書館をいつでも利用できるよう是非お願いしたいと思ひます。</p>							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		<ul style="list-style-type: none"> ・知識を持ち専ら学校図書館業務に関わる人材の確保、育成 ・外部団体の支援終了に伴う代替策の対応 							

今後の対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・外部支援団体との共同による研修の実施 ・学校司書知識に長ける技術指導者導入の検討 					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> <u>拡充</u> ・縮小)・休止・廃止・期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	6,390	12,663			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	5	事業名	「心の教育」推進事業(いじめ、暴力行為の防止)				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	2 豊かな心の育成					
	施策の展開	3 いじめ、暴力行為の防止に向けた取組の推進					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	いじめ・生徒指導問題対策事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
人間としてのより良い生き方を、主体的に追い求め実践していく児童生徒を育てる。							
事業効果							
人権教育を推進することで、児童生徒、保護者及び教職員の人権意識の高揚、児童生徒の道徳的実践力の向上が図られる。							
現状と課題							
児童生徒の規範意識やモラルの向上のため、心の教育の充実が求められる。道徳教育の充実を柱として人間としてのより良い生き方についての指導をしていく必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
いじめ生徒指導問題対策協議会の開催			実施				>
いじめ防止標語・心のメッセージ集の作成			実施				>
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数(小・中・高)	校	54	53	53	53	53
成果指標	認知されたいじめの解消率(H30年度以降、継続事案分は除く)	%	100	100	100	100	100

平成30年度の事業実施状況		1 石巻市いじめ問題対策連絡協議会の実施（3回実施） 2 石巻市生徒指導問題対策協議会の実施（3回実施） 3 いじめ・生徒指導問題対策に係る研修会の実施（いじめについての講演会の実施、生徒指導対策についての講演会の実施） 4 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 5 「STOPいじめ！石巻市子どもサミット」の開催 6 いじめに係る重大事態に備え、第三者による調査委員会を設置。開催。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数（小・中・高）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	54	53	53	53	53	A
		実績	校	54	53				
		達成率	%	100	100				
	成果指標	指標名	認知されたいじめの解消率（目標値：H30年度以降、継続事案分は除く）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	C
		実績	%	77.5	72.8				
達成率		%	77.5	72.8					
【評価基準】 達成率が100%以上 …A 達成率が80%以上100%未満 …B 達成率が60%以上80%未満 …C 達成率が40%以上60%未満 …D 達成率が40%未満 …E 事業を実施できなかった …F							総合評価 B		
取組の成果及び評価の理由		平成26年度に策定された「学校いじめ防止基本方針」により、教職員のいじめ防止に対する意識が向上した。それにより、いじめの認知や解消の見立てについての組織としての理解が進み、きめ細やかに事案に対応しているため、認知件数増加につながり、さらに解消率の低下に関係している。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 いじめの防止や早期発見は、教職員のいじめ防止に対する意識の向上が不可欠だと思います。認知したいじめの解消率が昨年度より低くなっていますが、解消に向けては教員1人で抱えることなく、組織的に粘り強く取り組むようお願いいたします。また、日頃からアンテナを高くして小さな変化、SOS信号を見逃さない取組、それから教師と児童生徒の信頼関係、児童生徒相互の人間関係を育てることに努力してほしいと思います。							
		【鍵 頼信氏】 私もSEL ^{*1} の取組を3年間やってきた結果、いじめはゼロになりました。また、不登校傾向の子どもがいましたが全て解消したということがあるので、SELについては各学校力を入れてほしいと思います。いじめや不登校そして生徒指導上の諸問題の未然防止、早期発見、早期解決を図るためには欠かせない事業だと思いますので更なる継続と充実をお願いします。 大切なことは、教職員がアンテナを高くして、あれ変だぞということに気付く感性をもっていることだと思います。チームで情報共有し動くことも大切ではないかと思います。そのためには、管理職のリーダーシップが大切であり、担任や学年に任せるだけではなく、学校全体で情報を共有し管理職がどう動くかということで、早期解決につながるような気がしますので、改めて教育委員会からも管理職への指導をお願いします。							

	<p>【木村美保子氏】 常日頃の先生と子どもたちとのコミュニケーションが一番大事だと思います。今後も先生方には子どもたちをよく見ていただき、子どもたちの小さな変化に対応してほしいと思います。同時に、担任だけではなかなか行き届かないと思いますので、他の先生方も常に子どもたちの小さな変化を見てあげられるような、そんな組織作りをしてほしいと思います。</p> <p>(※1) SELとは、Social and Emotional Learningの略で社会性や感情のコントロールなど、対人関係のスキルを身につける学習のこと。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	いじめに対する児童・生徒の心の育成					
今後の対応方針	校内の研修会を継続実施することで、未然防止につながるいじめを生まない風土づくりの推進					
令和元年度の見込み	新規・ 継続 拡充 ・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	536	458			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	6	事業名	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	2 豊かな心の育成					
	施策の展開	6 震災後の子どもの心のケア					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる					
	節	未来の人を育てる					
	細節	被災児童・生徒等への支援、心のケア					
	事業名	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）					
担当課	学校教育課	事業期間	H23	～	摘要		
事業目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・震災により心に深い傷を受けた園児・児童生徒等に対し、医療専門家による巡回相談やケース会議、健康実態調査を行い、心のケアを実施する。 ・死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族に対して、個別訪問や来室による相談等の支援活動を行う。 							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・心に深い傷を受けた園児・児童生徒の心の安定が図られる。 ・死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族からお話を伺うことや、交流会を開催することができた。 							
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階や地域の実情に応じた心のケアの充実が必要である。 ・震災で死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族に対し、可能な限り、心の安定を図ることができるようなサポートを継続的に行うことが重要である。 							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
医療専門家による巡回相談、ケース会議		実施				→	
医療専門家による健康実態調査		実施				→	
遺族に対する個別相談等の支援活動		実施				→	
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	未設定						
成果指標	未設定						

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 国府台病院児童精神科医師による巡回相談・支援関係者会議を行った。 2 課題を抱える児童生徒についての関係機関とのケース会議に、スーパーバイザーとして参加した。 3 幼・小・中・高すべての幼児・児童生徒に健康実態調査を実施し、結果をすべての園・学校に面談を行いながらフィードバックした。 4 個別訪問、電話、来室により御遺族からお話しをお伺いすることができた。 5 交流会の開催、支援室だよりの発行、支援室会議、サポート会議の開催。
---------------	---

目標の達成状況	活動指標	指標名	未設定							
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価	
		※評価は下記の「評価基準」により記載	目標値							
		実績								
		達成率								

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価 C
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	<ol style="list-style-type: none"> 1 配慮を要する児童生徒についての専門的知見からの助言は、学校での指導や支援に大いに役立つと共に、場合によっては適切な医療機関につながるケースも見られた。 2 健康実態調査の結果については学校ごとに面談をし、全体の傾向、配慮を要する児童生徒についての助言があり、学校での指導に大いに活かされていた。 3 訪問等により御遺族からお話しを伺うことや交流会に参加していただくことができた。
--------------	---

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 遺族交流会の実施に当たっては、様々な御苦勞があったと思います。敬意を表したいと思います。今後も心のケアにつきまして遺族に対し手立てを講じ、少しでも心の安定を図ってほしいと思います。今後とも心の寄り添った最大限のサポートをお願いしたいと思います。</p> <p>【鍵 頼信氏】 大切な事業であり、今後も継続して進めてほしいと思います。遺族の方々の考え方や置かれた状況も大分変化していると聞きますので、そのサポートの在り方については、検討していく必要があると思います。</p> <p>【木村美保子氏】 児童精神科の医師による巡回の相談に関しても震災後10年の期限ということであれば、10年経ったところでいったん見直しをするということも必要ではないかと思ひます。もちろん引き続き大切な事業だと思ひます。</p>
------------	---

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 国府台病院との連携は震災後10年の期限が迫り、国府台児童精神科医に代わって支援を継続するための方策を探る必要がある。 2 心の安定に寄与できるよう引き続き御遺族に寄りそったきめ細やかなサポートを長期的に実施する必要がある。
-------------	--

今後の対応方針	<p>1 各学校、園の配慮を要する幼児・児童生徒の対応について、今後も継続して専門医の助言を得られるような支援体制を探りながら、事業継続を図っていく。</p> <p>2 御遺族に対する心の支援はまだ決して十分とは言えない状況であり、引き続きサポートを継続して行く。</p>					
令和元年度の見込み	新規・ <u>継続</u> (拡充・縮小)・休止・廃止・期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	5,783	5,768			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	7	事業名	国際理解教育推進事業					
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1	社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	5	現代社会に対応した教育の推進					
	施策の展開	1	国際理解教育・外国語教育の充実					
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する						
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐくむ						
	事業名	国際理解教育推進事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要			
事業目的								
小・中・高等学校及び幼稚園、こども園、けやき教室において、ALT（外国語指導助手）との授業を通して、外国語教育と国際理解教育の充実を図る。								
事業効果								
ALTが幼稚園から高等学校までの教育現場に配置され、また、コミュニティーの行事等へ参加することにより、児童生徒及び地域の人々の外国語学習や国際理解教育の推進に大きな効果が期待される。								
現状と課題								
外国語教育の改革が進み、今後、小学校でのコマ数が増加することから、ALTの人数を増やし、来校数を確保する必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
外国語教育及び国際理解教育の実施				実施				→
ALTの配置				実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数	日	49	53	53	53	53	
成果指標	ALTとの授業が楽しい生徒の割合	%	85	80	80	80	80	

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況		市立幼稚園、湊こども園、市立小・中・高、適応指導教室の全59の学校(園)を13ブロックに分け、ALT13名を配置した。それぞれの配置校(園)において、担当教員とのチームティーチングが実践され、ALTとの授業が楽しいと感じる児童生徒の割合も、77.5%と高い値を示した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	日	49	53	53	53	53	B
		実績	日	44.3	46.1				
		達成率	%	90.4	87				
	成果指標	指標名	ALTとの授業が楽しい生徒の割合						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	80	80	80	80	B
		実績	%	75.8	77.5				
		達成率	%	89.2	96.9				
【評価基準】 達成率が100%以上 …A 達成率が80%以上100%未満 …B 達成率が60%以上80%未満 …C 達成率が40%以上60%未満 …D 達成率が40%未満 …E 事業を実施できなかった …F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		平成30年度から2年間の移行期を経て、令和2年度には小学校中学年で35時間の外国語活動、高学年で70時間の外国語(教科)が完全実施となる。英語教育の改革に伴い、ALTをさらに有効活用しようとする意識が高まっており、またALT自身も指導力の向上を目指して研修に励んでいる。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 特にグローバル化の進展により英語教育の重要性が増してきています。小学校の外国語活動につきましては、令和2年度の3、4年生で35時間、5、6年生で70時間を実施することとなります。それに伴い、その指導体制や指導法の対応策の一つとして、ALTの活用と増員、そして先生方の研修は欠かせないものだと思います。ALTの授業が楽しいとの割合が高くなっており、今後も有効な活用が求められると思います。さらに、地区ごとの幼・小・中の連携を大切にいただき、授業を日常的に見合ったり、交流したりできる体制づくりも期待したいと思います。							
		【鍵 頼信氏】 英語の重要性というのは高まっていると思います。もっとALTを有効活用するためには、現場の声も吸い上げながら契約内容の見直しを図ると、更に効果が得られるのではないかと思います。また、ALTが良くても、担当する職員の対応によりALTのモチベーションに影響することもありますので、担当職員の研修も必要だと思います。							
		【木村美保子氏】 成果指標は、非常にいい数値になっていますので、引き続き頑張ってほしいと思います。							

課題・改善(ACTION)

<p>事業を進める上での課題</p>	<p>次期学習指導要領では、小学校でのコマ数が増加することから、ALTの小学校への配置数を増やし、教員のサポートに充てる必要がある。ただ、ALTの人数や、配置ブロックの学校数、学校の規模により、ALTを配置できる回数に差があるため、特に児童生徒数の多い学校では配置が不十分な状態にある。</p>					
<p>今後の対応方針</p>	<p>ALTを増員し、児童生徒数の多い学校への配置日数を増やす。</p>					
<p>令和元年度の見込み</p>	<p>新規・<u>継続</u>・<u>拡充</u>・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了</p>					
<p>事業費(決算額)</p>	<p>年 度</p>	<p>H29</p>	<p>H30</p>	<p>R元</p>	<p>R2</p>	<p>R3</p>
	<p>金額(千円)</p>	<p>54,225</p>	<p>59,048</p>			

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番号	8	事業名	特別支援教育支援員配置事業				
石巻市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	6 特別支援教育の充実					
	施策の展開	1 学習支援体制の強化					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	特別支援教育支援員配置事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
障害のある児童生徒が在籍する通常学級及び当該児童生徒に支援員を配置し、学習指導や生活指導の充実と学校生活における安全を保障する。							
事業効果							
小・中学校の通常学級に在籍する特別な支援を必要とする発達障害児等の学校生活に対する意欲の喚起や学習等の能力の育成を図るとともに、学級担任の指導の充実につながる。							
現状と課題							
様々な障害のある児童生徒が通常学級に在籍し、学級担任は配慮しながら指導を行っているものの、担任単独で対応している場合が多く、当該児童生徒への指導や安全確保の面で不十分なところがある。より充実した支援を図るため、継続的に支援員配置拡充及び配置後の支援員の資質の向上を図る必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
特別支援教育支援員の小・中学校への配置			実施				→
特別支援教育支援員研修会の実施			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率	%	100	100	100	100	100
成果指標	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度	%	100	100	100	100	100

実施状況及び評価(CHECK)

平成30年度の事業実施状況		<p>今年度は小学校28校に72名、中学校7校に10名、計35校に82名の特別支援教育支援員が配置された。昨年度より3名多い配置である。各支援員は、校長をはじめとする教職員の指示を受けながら、対象となる児童生徒のサポートに努めている。また夏休み中に「発達障害のある児童生徒への支援」をテーマに、支援員の資質向上のための研修会を行った。宮城県立石巻支援学校の教頭を講師として、具体的な支援事例を紹介してもらったことが効果的だった。</p>							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	%	100	100	100	100	100	
		実績	%	59	45.3				
	達成率	%	59	45.3				D	
	成果指標	指標名	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	%	100	100	100	100	100	
実績		%	100	100					
達成率	%	100	100				A		
【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							C		
取組の成果及び評価の理由		<p>発達の偏りの大きい児童が増えている。幼稚園等でも支援員の支援を受けながら生活してきた児童も多く、保護者は継続した支援体制を希望するケースが多い。しかし年々増加する要望に対しすべて配置することは不可能であり、支援員の配置を増やしても実績は下がる。そのため活動指標と成果指標に隔たりがある。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 支援を必要とする児童生徒への対応は一様でない難しさがあると思います。対応を誤ると不登校になるというケースも散見されている現状です。そういう意味において、支援員の資質の向上と配置の拡充は必要不可欠であると思います。研修会で専門的な立場から指導を受けるのは有効なことと考えます。今後も支援を必要とする児童生徒の増加が予想される中、支援員の増加と、ニーズに応じた配置が望まれると考えます。</p> <p>【鍵 頼信氏】 発達障害等のある子どもに応じた関わり方や支援、ほかの子どもへの影響、学級担任に掛かる負担の軽減などを考えますと本当に重要な事業であり、一層の充実をお願いします。 目に見える発達障害の子どももいれば、目に見えない発達障害を抱え何かの環境の変化で突然それが表に出るという場合もあります。担任が倒れ、学級運営にも大きな影響を与えるということもあります。担任の負担等も考えていただき、支援員の確保を今後も続けてほしいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 支援員の確保と増員は急務だと思います。今はいろいろな求人の方法がありますので、知り合いを介すなど、様々な方策で努力し、各学校が充足するようお願いします。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	学校や保護者からのニーズに応えられる配置数を確保することが重要な部分ではあるが、同時に、限られた支援員を児童生徒の実態をふまえ、適切に配置したり、個々の支援員の質の向上を図ったりしながら、その効果を維持していくことが課題である。
今後の対応方針	毎年一定数の支援員配置数の増加を目指していくとともに、就学指導委員会における審議結果等によって児童生徒の実態を適切に把握しながら、効果的な配置を進めていく。また、関係機関等から講師を招聘し、研修会を行うことで、支援員の意識の向上や特別支援教育に関する専門的な理解を深め、支援に必要なスキルを育成していく。
令和元年度の見込み	新規 ・ <u>継続</u> (<u>拡充</u> ・縮小) ・ 休止 ・ 廃止 ・ 期間満了による終了

事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	80,152	86,326			

